

常照

第 852 号

【報恩講を勤め終えて】

十一月を迎え、初雪が降りいよいよ北海道は長い長い冬の季節が始まりました。この頃までには各地のほとんどの浄土真宗寺院において「報恩講」がお勤めされた事と思います。当寺においてもお陰様で御出仕いただいた御法中（ごほつちゅう）僧侶の方々、会場・受付・司会等を担当いただいた役員世話方の皆さま、「御斎（おとぎ）」の準備・ご接待を頂いたご婦人の方々、そしてご参詣いただいた檀信徒はじめ有縁の皆さまと共に、無二のお勤めを頂戴し、ホツとしております。本来にありがと

うございました。親鸞聖人のご命日（旧暦十一月二十八日・新暦一月十六日）には浄土真宗の各ご本山において御正忌報恩講が勤まります。機会がありましたら、是非お参りください（詳しくは真宗教団連合ホームページ、カレンダーをご参照ください）。

【減少する信仰心】

ところで、皆さんは一年の間にどれだけお寺参り、お墓参りをされていますか？今、ご紹介した「報恩講」が一番大切な法要とされていますが、その「報恩講」よりも「お盆」にお参りされている方が一番多いのではないのでしょうか？そのお盆参りにしても、近年では高齢化、過疎化、それに伴い墓じまい、宗教離れ等など、様々な要因でお参りいただく方がめっきり減ってしまいましたように思います。墓じまいについては二〇二一年度の統計では北海道が東京に次いで二番目に多く約九千三百件あ

りました。ちなみに一番少なかったのは福井県の約百三十件で、北海道は福井県の七十二倍にもなります。北海道で墓じまいが多い理由としては札幌などの都市部に改葬する方が多いことや、町の歴史や信仰心が浅いため、墓じまいに抵抗感が少ないからだとされています。そして「宗教離れ」についてですが、直近の調査では「信仰心は全くない」「ほとんどない」と答えた人は三十八パーセントにもなりました。年齢層が増えてきている一方で、有名な神社仏閣では参拝者が増えているというのです。確かに、夏に京都へ家族旅行に出掛けましたが、有名なお寺や神社には人が沢山おりました。外国人がほとんどのように見えました。外国人がほとんどのではないようです。

【無宗教という宗教】

今の日本では宗教の「個人化」が進

んでいるようです。地域の寺の檀家や神社の氏子は激減していますが、有名な神社仏閣を巡る事はブームになっています。また神社仏閣で「御朱印」を集める趣味が広がっています。以前、私のお寺に遠くから観光に来られた方なのでしようか、「御朱印」を求めて訪ねてこられた方がございましたが、用意が無い事を伝えると素っ気なく立ち去って行かれた事がありました。せめてご本堂に手を合わせて行かれればと思ったものです。「御朱印帳」はその神社仏閣で求めるものと思っております。最近では書店や文具店で販売しているのを見かけます。さらには、書店ではパワースポットなる寺社を紹介するガイドブックや仏教美術の紹介、寺社建築の解説本、自己啓発やスピリチュアル、占いの本がよく売れているようです。「宗教は信じていないけれども、宗教的なものが好き」というのが日本人の特性のようです。これは「今

どき」の話ではなく、「『自分は無宗教だ』という思い込みこそ日本人の宗教だ」と幕末の思想家である吉田松陰は言っていたそうです。

【呼応するお念仏】

私は、「御朱印集め」「パワースポット巡り」などを完全に否定するつもりはありませんが、何か一方通行の自己満足でしかないように思います（趣味とするならそれは完全に自己満足の世界ですが）。我々浄土真宗の門徒において一番大事な事とされているのが手を合わせお念仏を称える事「称名念仏」です。皆さんも、親しい方の死やご葬儀など、いろいろなご縁で合掌される事があると思います。その時、どのようなお気持ちで手を合わされているでしょうか？合掌する時は必ず仏様・御本尊（阿弥陀如来）と真向（まむき）になっておられると思います。仏様は沢山おられます。身近な方から、お顔

やお名前も分からぬ無量無数のご先祖様です（一代遡ると両親が二人、二代遡ると祖父母が四人、三代遡るとひい祖父母が八人、このように計算したとき二十代遡ると一、〇四八、五七六人もなるそうです）。今、この私一人の「命」のために繋いでくださった無量無数の「いのち」、すなわち「アミダのいのち」
 Ⅱ「阿弥陀如来」に手を合わせ、「阿弥陀如来」の声なき声に耳を傾け、その呼びかけに応え、お念仏を称える事が大切です。決して一方通行になってはいけません。「阿弥陀如来」の呼びかけに「阿弥陀如来」の恩に報いていくことこそが浄土真宗の御教えと私はいただいております。皆さまにはより一層お寺にお参りをいただき、御教えを聴聞し、「阿弥陀如来」と呼応するお念仏をお称えいただきますことをお願い申し上げます。

南無阿弥陀仏

合掌

令和七年 法事表

一周忌	令和六年	寂
三回忌	令和五年	寂
七回忌	令和元年	寂
十三回忌	平成三十二年	寂
十七回忌	平成二十五年	寂
二十三回忌	平成二十一年	寂
二十五回忌	平成十五年	寂
二十七回忌	平成十三年	寂
二十七回忌	平成十一年	寂
三十三回忌	平成五年	寂
(三十七回忌)	平成元年	寂
	昭和六十四年	寂
五十回忌	昭和五十一年	寂

※詳しくはお寺にお尋ねください。

一月の常例布教(ご法話)のご案内

○前期 一月九日(木)～十一日(土)

熊本教区 益北組 淨福寺

講師 淨住 ゆき 師

○後期 一月十三日(月)～十六日(木)

山口教区 豊浦西組 大専寺

講師 木村 智教師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時(法要終了後)～

午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話をして頂きます。
 どうぞお誘い合わせ頂き、ご聴聞に来院ください。
 席の間隔を保ち、換気実施の上、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号

本願寺小樽別院

電話 (〇三四) 二二一〇七四四番
 FAX (〇三四) 二九一四〇八〇番
 テレホン法話 二七一六一六番